

新 田 原 古 墳 群  
三 幸 ヶ 野 遺 跡 群  
丸 谷 地 区 遺 跡 群  
奈 留 地 区 遺 跡 群  
鬼 塚 地 区 遺 跡 群  
椎 屋 形 遺 跡 群  
長 江 浦 地 区 遺 跡 群

平成2年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書

平成3年3月

宮崎県教育委員会

新 田 原 古 墳 群  
三 幸 ヶ 野 遺 跡 群  
丸 谷 地 区 遺 跡 群  
奈 留 地 区 遺 跡 群  
鬼 塚 地 区 遺 跡 群  
椎 屋 形 遺 跡 群  
長 江 浦 地 区 遺 跡 群

平成2年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書

平成3年3月

宮崎県教育委員会

## 序

宮崎県内各地では、農業等の近代化を図るため各種の農業基盤整備事業が実施されています。事業実施予定地内に遺跡などの文化財が所在する場合が多々あり、文化財の保護と農業基盤整備事業との調整が大きな課題となっています。県教育委員会では、とくに遺跡へ影響が大きいほ場整備等の区画整理予定地および農道の新設地については、発掘調査や分布調査を行い、遺跡の所在の有無、性格、範囲等の基礎資料を作成し、協議の際の資料としています。

本年度は、北方町速日峰地区、高岡町餅田地区、田野町天神河内第2遺跡、西都市寺山遺跡など15か所で発掘調査を実施しました。本報告書は、その中の7か所についての調査概要報告ですが、この成果が文化財の保護に活かされ、また、地域の歴史研究、社会教育の場等で役立てていただければ幸いに存じます。

最後に、調査にあたって御協力いただいた地元並びに関係諸機関の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成3年3月

宮崎県教育委員会

教育長 児玉 郁夫

## 例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が平成2年度国庫の補助を得て実施した発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、宮崎県内の農業基盤整備事業等に伴う遺跡の確認調査として実施した。
3. 遺跡の名称は、現在、遺跡として報告されていず、今回の分布調査・発掘調査等で確認された遺跡についてはほ場整備事業の地区名を使用している。また、遺跡の推定範囲が広範囲でその中に、数箇所の散布地等が分布している場合には、遺跡群としている。今後、本調査を実施した際、各区の字等により遺跡名が命名される予定である。
4. 発掘調査は、県文化課主査面高哲郎、主任主事石川悦雄、主事飯田博之が担当した。
5. 本書で使用した図面等は、面高哲郎が作成した。
6. 本書の執筆・編集は、面高哲郎が担当した。
7. 出土した遺物等は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで保管している。

## 本文目次

第Ⅰ章	はじめに	1
第Ⅱ章	発掘調査の概要	3
第1節	新田原古墳群（祇園原地区）	3
第2節	三幸ヶ野遺跡群	7
第3節	丸谷地区遺跡群	10
第4節	奈留地区遺跡群	13
第5節	鬼塚地区遺跡群	16
第6節	椎屋形遺跡群（時屋地区）	19
第7節	長江浦地区遺跡群	22

## 挿図目次

第1図	新田原古墳群トレンチ配置図	4
第2図	第115号、122号周溝土層図及び第115号周溝出土遺物	5
第3図	三幸ヶ野遺跡群トレンチ配置図	8
第4図	丸谷地区遺跡群トレンチ配置図	11
第5図	奈留地区遺跡群トレンチ配置図	14
第6図	鬼塚地区遺跡群トレンチ配置図	17
第7図	椎屋形遺跡群トレンチ配置図	20
第8図	長江浦地区遺跡群水流遺跡トレンチ配置図	23
第9図	長江浦地区遺跡群田ノ原遺跡トレンチ配置図	24

## 図版目次

図版1	新田原古墳群（祇園原地区）	6
図版2	三幸ヶ野遺跡群	9
図版3	丸谷地区遺跡群	12
図版4	奈留地区遺跡群	15
図版5	鬼塚地区遺跡群	18
図版6	椎屋形遺跡群（時屋地区）	21
図版7	長江浦地区遺跡群	25

# 第Ⅰ章 はじめに

宮崎県内で実施されている農業基盤整備事業は、ほ場整備、特殊農地保全整備、農地開発、広域農道建設、農免農道建設、灌漑排水、ダム建設等の各種の事業が実施されている。この中にはほ場整備や特殊農地保全整備など区画整理を伴う面的工事、農道建設や灌漑排水など線的工事などがあるが、調査は、遺跡への影響が大きい面的工事の予定地、線的工事では広域農道建設や農免農道建設等の道路新設予定地を重点として実施した。本年度は、確認のための発掘調査だけでなく、日向市大字富高の広域農道通過予定地となっている高平城跡の測量調査も実施している。本年度の調査箇所は、下記のとおりである。

調 査 地	所 在 地	調 査 年 月 日	担 当 者
速日峰地区遺跡群	東臼杵郡北方町大字巳	平成2年4月16日～24日	面高 哲郎
		平成3年3月11日～15日	
餅田地区遺跡	東諸県郡高岡町大字浦ノ名	平成2年4月16日～24日	石川 悦雄
天神河内第2遺跡	宮崎郡田野町字天神	平成2年7月23日～27日	面高 哲郎
寺山遺跡	西都市大字三宅字寺山	平成2年7月18・19日	〃
鬼ヶ浄土遺跡	東臼杵郡諸塚村大字家代	平成2年7月12・13日	〃
高平城跡	日向市大字富高	平成2年9月27日～10月5日	〃
新田原古墳群	児湯郡新富町大字新田	平成2年11月15日～20日	〃
三幸ヶ野地区遺跡群	串間市大字一氏字三幸ヶ野	平成2年12月11日～14日	〃
丸谷地区遺跡群	都城市丸谷町	平成2年12月17日～20日	〃
奈留地区遺跡群	串間市大字奈留字中別府	平成2年12月26・27日	〃
鬼塚地区遺跡群	小林市大字南西方	平成3年1月16・17日	〃
椎屋形遺跡群	宮崎市大字細江	平成3年1月22・23日	〃
長江浦地区遺跡群	えびの市大字西長江浦	平成3年1月28日～2月1日	〃
百町原地区遺跡群	日向市美々津町	平成3年2月20日～23日	〃
畑上遺跡	延岡市細見町	平成3年3月19日～27日	面高 哲郎 飯田 博之

本書で概要を報告していない箇所の発掘調査結果は、次のとおりである。

速日峰地区遺跡群は、縁辺が急崖となっている標高約105m～120mの台地上に立地する。

平成2年度工事予定地内に遺物散布地や地形上遺跡の可能性の高い場所が含まれていたの  
で7か所において試掘調査を実施した。うち6か所において縄文早期から中世の時期の遺  
跡が確認された。現在、北方町教育委員会が本調査を実施しているが、傾斜面等で弥生後  
期や古墳後期の住居跡等が検出され、注目される資料が得られている。

餅田地区遺跡では、耕作土で中世の遺物が出土し、時期不詳の溝が検出された。本調査は  
昨年10月実施し、遺物は、青磁、染付等の輸入陶磁器、土師器などが耕作土等の攪乱土で  
出土したが、試掘調査で検出されていた溝がこの時期のものであるとの判断までは至らな  
かった。

天神河内第2遺跡は、天神ダム建設により水没する箇所である。調査によりアカホヤ下  
の暗褐色土での縄文早期の土器、焼石等が出土し、御池ボラの直上の御池ボラを含む暗褐  
色土で後期の大平式土器が出土している。

寺山遺跡は、南東に延びる洪積世台地の北縁の一段低い舌状台地上に立地する。試掘調  
査は、杉林や竹林の中であったため限定された調査ではあったが、アカホヤの上下の層で  
遺物等が出土した。上の黒色土では平安時代と推定される土器片、下の黒褐色土では縄文  
早期の焼石が出土した。

鬼ヶ浄土遺跡は、標高900mに所在する遺跡である。遺物は、アカホヤの上のにぶい暗  
褐色土で轟式系と推定される貝殻条痕文土器、チャートのチップ等が出土し、また、アカ  
ホヤの下のにぶい暗褐色土では土器は出土していないが、チャートのチップ、焼石等が出  
土し、遺跡には縄文早期及び前期の文化層が存在することが判明した。

百町原地区遺跡群の立地する百町原は、東に日向灘を望む標高約35mの台地で、今回の  
調査対象地は、台地東縁で霧島原遺跡及び中世の山城跡が所在している。開田の際一部削  
平を受けているが、アカホヤ以下は良好に残存している。霧島原遺跡では、市の分布調査  
で土錘等が採集されているが、時期不詳の弧状の幅80cm程の溝が検出されたのみで包含層  
等は確認されていない。霧島原遺跡の北東600mで新たに弥生土器及び中世の遺物散布地  
が確認された。遺構は検出されていないので遺構の分布密度は低いと考えられる。

## 第Ⅱ章 発掘調査の概要

### 第1節 新田原古墳群（祇園原地区）

#### 1. 遺跡の位置及び調査に至る経緯

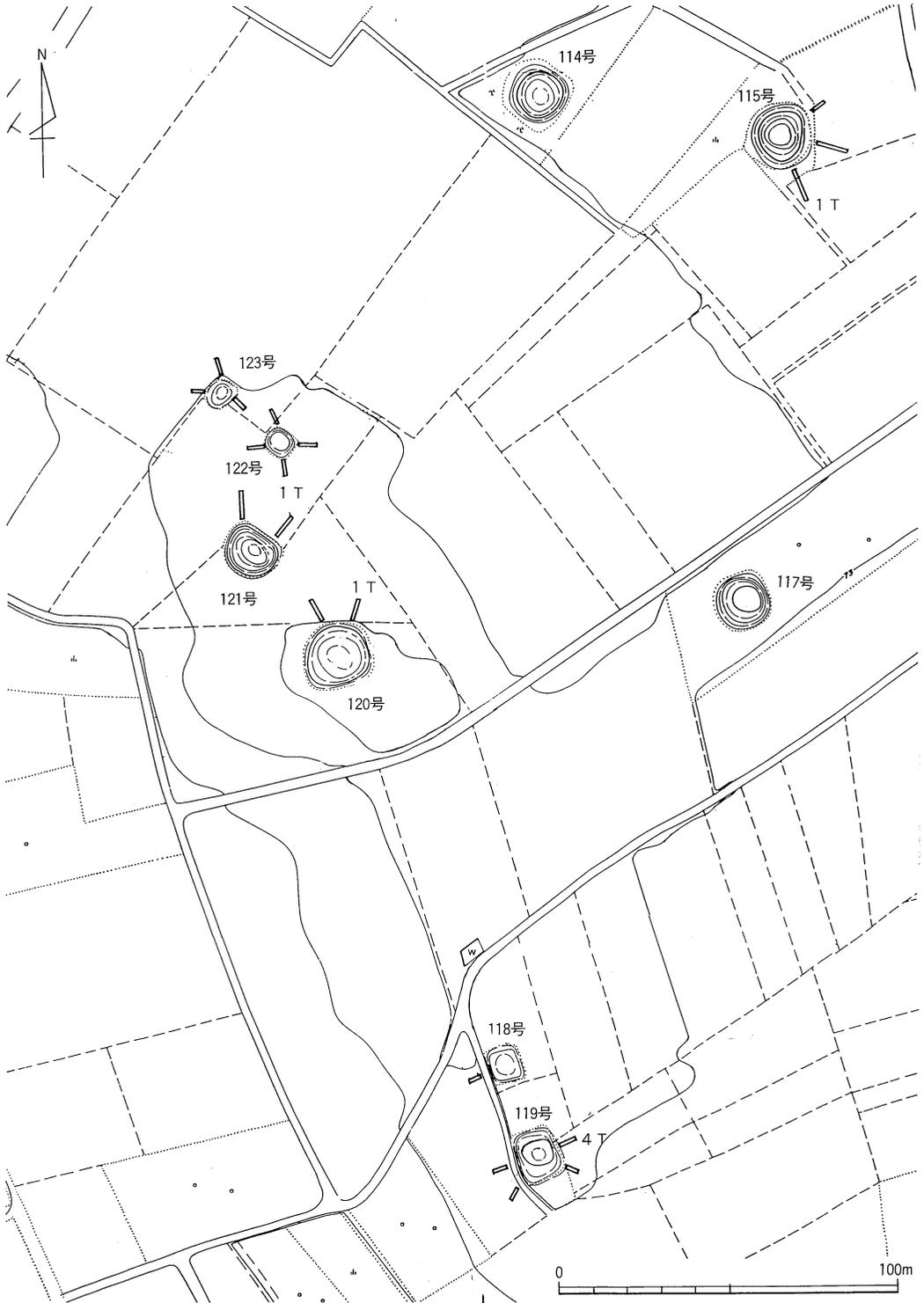
新田原古墳群は、航空自衛隊新田原基地の西及び南に分布し、前方後円墳24基、方墳1基、円墳182基からなる古墳群である。当地は通称「新田原面」と呼ばれる標高約70mの洪積世台地で、眼下を一ツ瀬川が南から東へ流路をとっており、西方の台地には西都原古墳群が所在している。台地上面は平坦でなく、湧水等による浸蝕作用による起伏が見られ、水田が営まれている谷底低地も見られる。古墳は、起伏の頂部や谷底低地を望む台地縁辺等に立地している。新田原古墳群は、行政区は大半が新富町で一部西都市部分に含まれる。

宮崎県一ツ瀬土地改良事務所では昭和40年代後半から尾鈴・尾鈴Ⅱ地区農業基盤総合整備事業を実施してきている。事務所では数年前より新田原古墳群を含む一帯を祇園原地区としてほ場整備事業の実施を計画しており、そのため、文化課では昭和63年度より古墳の周溝の確認及び分布調査をしてきている。昭和63年度の試掘調査は、前方後円墳52、56号、円墳53、116、191、192、194号等を実施し、56、192、116、194号で周溝を確認し、191号の周辺では、弥生後期の竪穴住居跡も確認されている。平成2年度は、円墳64号等の周溝の確認と工事予定地内の分布調査を実施した。

#### 2. 調査の方法と概要

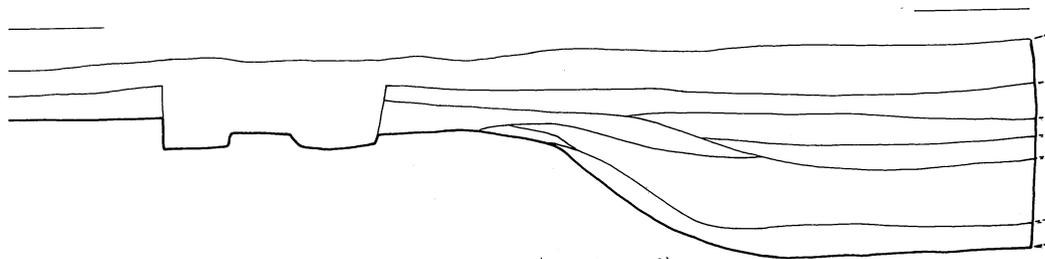
分布調査は、平成2年度工事予定地内全域を行った。遺物は、古墳周辺で須恵器が散布しており、台地西縁にあたる県道西では、須恵器や弥生土器、磨石、石斧、石錘など各種の遺物が散布し、特に192号周辺に多く散布している。

試掘調査は、円墳64、115、118、119、120～123、188、200号の調査を実施した。トレンチは幅1mで古墳の周囲に4か所を基本としたが、作物等の関係で1か所にならざるをえない古墳もあった。当地の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層アカホヤ、第Ⅳ層黒褐色土、第Ⅴ層褐色土であるが、耕作等の影響を受けており、影響度は起伏の頂部ほど大きい。そのため周溝の底まで削平されている古墳もある。115号墳では、深さ0.8m、幅4mほどと推定される周溝が確認され、周溝を含めた径は27.3mが復元される。遺物は、周溝の埋土最下層で須恵Ⅱ期（小田編年）の坏蓋、身等が出土した。119、188、200号の周囲はアカホヤが残存し周溝が確認され、188号では葺石も確認された。120～123号周辺は削平が著しく、70cm～80cm下げられている所もあり、土層は第Ⅳ層黒褐色土から第Ⅴ層褐色土以下が残存している。121～123号の墳丘は周囲が削られ墳形も方形状を呈している。120号の周囲は第Ⅳ層から残存し2トレンチで周溝が検出された。122号では、第1トレンチで幅1.1m深さ0.35mの周溝が現墳丘から3m離れた位置で検出され

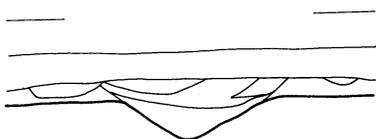


第1図 新田原古墳群トレンチ配置図

た。その他のトレンチでは検出されず既に消滅しているが、122号は周溝を含めた径は17～18m前後と考えられる。123号の周溝は削平により消滅しているが、122号と同じく周溝を含めた径は17～18m前後と考えられる。



第115号周溝土層図(第1トレンチ)



第122号周溝土層図(第1トレンチ)



第115号周溝出土遺物(第1トレンチ最下層)



第2図 第115号、122号周溝土層図及び第115号周溝出土遺物

図版1 新田原古墳群



第122号墳調査状況



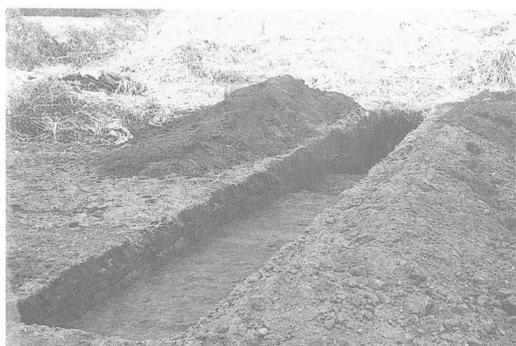
第122号墳第1トレンチ



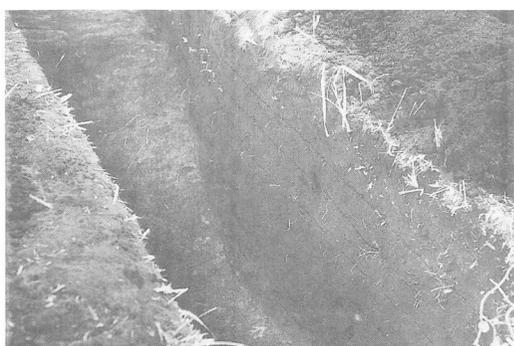
第122号墳周溝 (第1トレンチ)



第120号墳第1トレンチ



第115号墳第1トレンチ



第115号墳周溝 (第1トレンチ)



第119号墳周溝 (第4トレンチ)



第200号墳周溝

## 第2節 三幸ヶ野遺跡群

### 1. 遺跡の位置及び調査に至る経緯

串間市大字一氏・三幸ヶ野地区は、串間市役所の北約9kmに位置する。当地には容結凝灰岩(灰石)を基盤としてその上に成層シラス、礫層、日向ローム等がのる三幸ヶ野原と呼ばれる台地がある。台地の眼下には福島川が流れており、台地と川との比高差約50mでのり面は急崖となっている。

宮崎県南那珂農林振興局では、昭和63年より三幸ヶ野地区の特殊農地保全整備事業を実施している。本年度、工事施工に伴い隆帯文土器を出土する縄文草創期の三幸ヶ野第2遺跡の発掘調査を市教育委員会が実施している。平成3年度の工事予定地は、三幸ヶ野原の西の上迫(ウエザコ)であるが、当地には、多量の土器出土地として知られている三幸ヶ野遺跡の外焼石等の散布地が2箇所が所在したので、試掘調査をA・B地区で実施した。

### 2. 調査の方法と概要

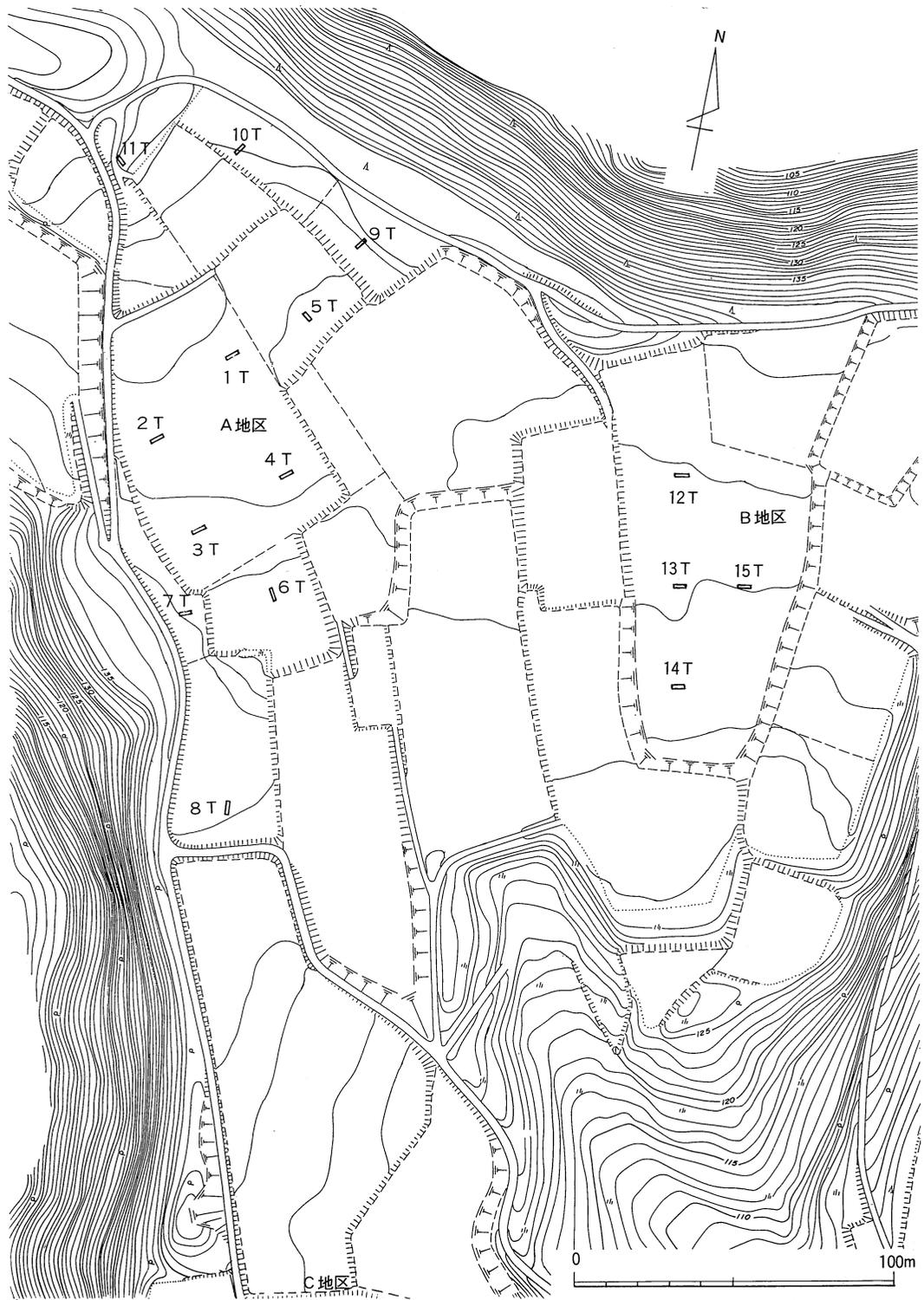
調査は、1m×4mを基本とするトレンチを設定して実施した。基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層白ボラ、第Ⅳ層黒色土、第Ⅴ層御池ボラを含む黒色土、第Ⅵ層黒色土、第Ⅶ層アカホヤ、第Ⅷ層黒褐色土で場所によつては褐色土、第Ⅸ層パミス粒を若干含む暗褐色土である。概してアカホヤの残存状況は良好であるが、基本層序が残存しているのは第8トレンチのみである。

**A地区**：縄文後期前半の土器や石器の散布している三幸ヶ野遺跡である。トレンチは11か所設定した。第1～4トレンチでは第Ⅱ層から第Ⅴ層は残存しないが、第Ⅰ層下の黒褐色土で縄文後期前半の土器が多量に出土した。石器は、磨石、石皿、石匙のほか黒曜石やチャートのチップ等が出土したが、石鏃は出土していない。同時期の遺物は、第5・11トレンチでも若干出土し、第5・6トレンチでは、第Ⅷ層で焼石が出土している。

**B地区**：焼石が散布していた箇所である。トレンチは4か所設定した。第13～15トレンチではアカホヤが残存し、第Ⅷ層で焼石が出土した。また、第14トレンチでは石鏃が出土した。

**C地区**：縄文早期前半の前平式土器、焼石が散布していた箇所である。開墾等により大部分が削平を受けており、アカホヤ以下の土層が残存しているのは一部である。

この結果からA地区は縄文早期及び後期前半の遺跡でその範囲は、広い範囲にわたると考えられる。出土遺物の中に磨石・石皿があるが、石皿は以前にも地元で採集されていたり、調査中も石皿や磨石が畦等で採集されたりしその多さは注目される。また、B・C地区は縄文早期の集石遺構を伴う遺跡であるが、開墾等の影響で残存状況は悪い。

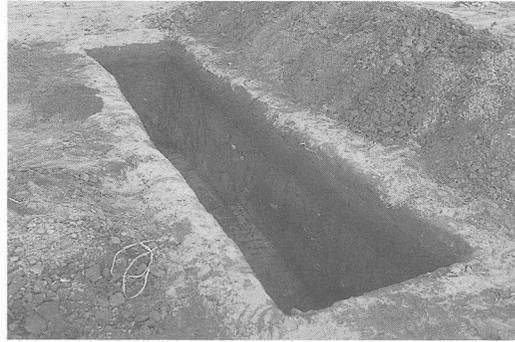


第3図 三幸ヶ野遺跡群トレンチ配置図

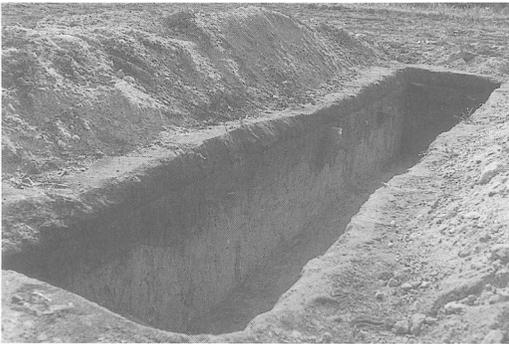
図版2 三幸ヶ野遺跡群



A地区近景



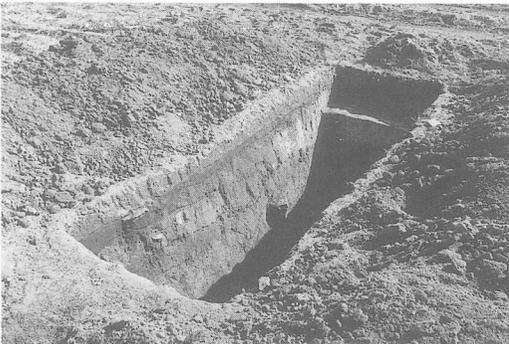
A地区第1トレンチ (西より)



A地区第2トレンチ (東より)



A地区第7トレンチ (西より)



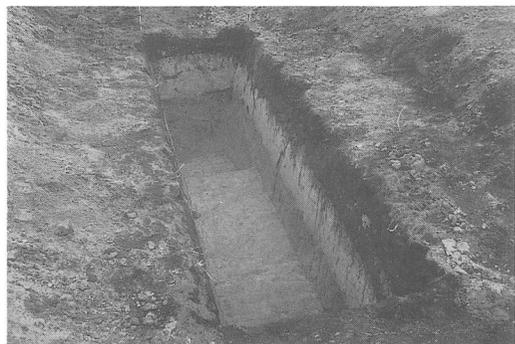
A地区第6トレンチ (北より)



A地区第8トレンチ (北より)



B地区近景



B地区第14トレンチ (東より)

## 第3節 丸谷地区遺跡群

### 1. 遺跡の位置及び調査に至る経緯

都城市街地の北約7.5km、霧島山より東方向に伸びる台地間には丸谷川により形成された河岸段丘が発達している。この河岸段丘上には弥生後期の丸谷第1遺跡、下大五郎遺跡、時期不詳の山ノ田第1遺跡等が所在している。丸谷地区では県北諸県農林振興局が、昭和62年度からはほ場整備事業を、県都城土木事務所が丸谷川の河川改修工事を実施しており、平成2年度は、ほ場整備事業及び河川改修工事に伴い下大五郎遺跡の発掘調査が行われ、弥生後期の花卉状住居跡10数軒検出されている。

平成3年度工事予定地は、本年度工事の上流部分である。上流部分には遺物散布地などは確認されていなかったが、下大五郎遺跡が立地している舌状の河岸段丘張出部が丸谷川右岸に5か所、左岸に2か所あったので試掘調査を実施した。

### 2. 調査の方法と概要

調査は、1m×4mのトレンチを基本として実施し、トレンチは14か所設定した。基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒褐色土を呈する旧耕地整理の際の盛土部分、第Ⅲ層黒色土、第Ⅳ層ボラを含み、下部ほどその量が多い黒色土、第Ⅴ層御池ボラ（縄文中期降下）である。丸谷川右岸はこの層序が良く残存しているが、左岸部分の第Ⅰ層耕作土下の層は、黒色土と御池ボラの混土或いは砂混じりの御池ボラである。この左岸部分の土層は、昨年度の試掘調査で確認された下流の左岸部分の土層と同じであり、これは、大正年間の耕地整理で第Ⅴ層の御池ボラを水により除去したためと考えられる。下流の左岸部分ではこの攪乱土では弥生土器等が多数出土したが、今回は土器等は1点も出土していない。

右岸部分では下流より第3・4舌状張出部で土器が出土した。第3舌状張出部の第9トレンチでは遺物は出土していないが、第7・8トレンチの第Ⅲ層黒色土で弥生後期の時期と推定される甕の口縁部、長頸壺の口縁部と推定される土器等が出土した。第4舌状張出部では、第11トレンチで弥生土器の外高台付きの土師器碗(?)の底部が出土し、第12トレンチでも弥生土器が出土している。

以上の結果から第3・4舌状張出部は、弥生時代後期の遺跡で包含層も良く残っており、さらに住居跡は検出されていないが、地形上集落跡である可能性が高い。また、第4舌状張出部の第11トレンチで高台付きの土師器碗(?)が出土しているので当舌状張出部には奈良～平安の遺構もあると考えられる。

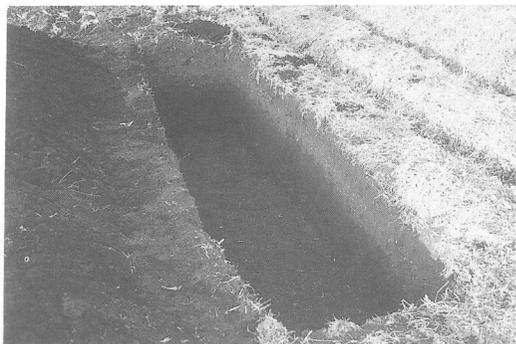


第4図 丸谷地区遺跡群トレンチ配置図

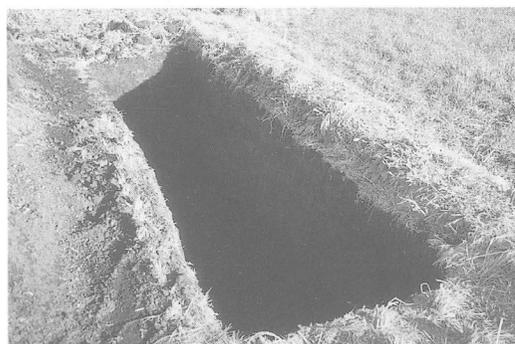
図版3 丸谷地区遺跡群



丸谷地区近景（東より）



第4トレンチ（南より）



第7トレンチ（北より）



第8トレンチ（西より）



第4舌状張出部遠景（南より）



第11トレンチ（南より）



第12トレンチ（南より）



第14トレンチ（東より、丸谷川左岸）

## 第4節 奈留地区遺跡群

### 1. 遺跡の位置及び調査に至る経緯

串間市大字奈留は、串間市役所の北北東約8kmの南郷町との市界に位置する。県南那珂農林振興局では、昭和58年度より奈留地区（字中別府、字長野、字鯛取）で農地開発事業を実施してきている。事業区内は丘陵地帯で、広面積の台地は見られず丘陵斜面の中腹に段丘状の平坦面や舌状の台地・緩斜面等がある。その面積は決して広いものではないが、付近に湧水等は多い。

事業区内の分布調査・試掘調査等は昭和57年度から随時実施してきており、また、工事により影響を受けた遺跡については、串間市教育委員会が昭和61年度から猪之極遺跡、開尾遺跡、留ヶ宇土遺跡、村上遺跡を発掘調査している。平成3年度は、地形上遺跡の可能性があると考えていた北方へ細長く延びる緩斜面の平坦部の2か所が工事されることになったので分布調査をしたところ、下段平坦部で布痕土器などが散布していたので上段平坦部を含めて試掘調査を実施した。

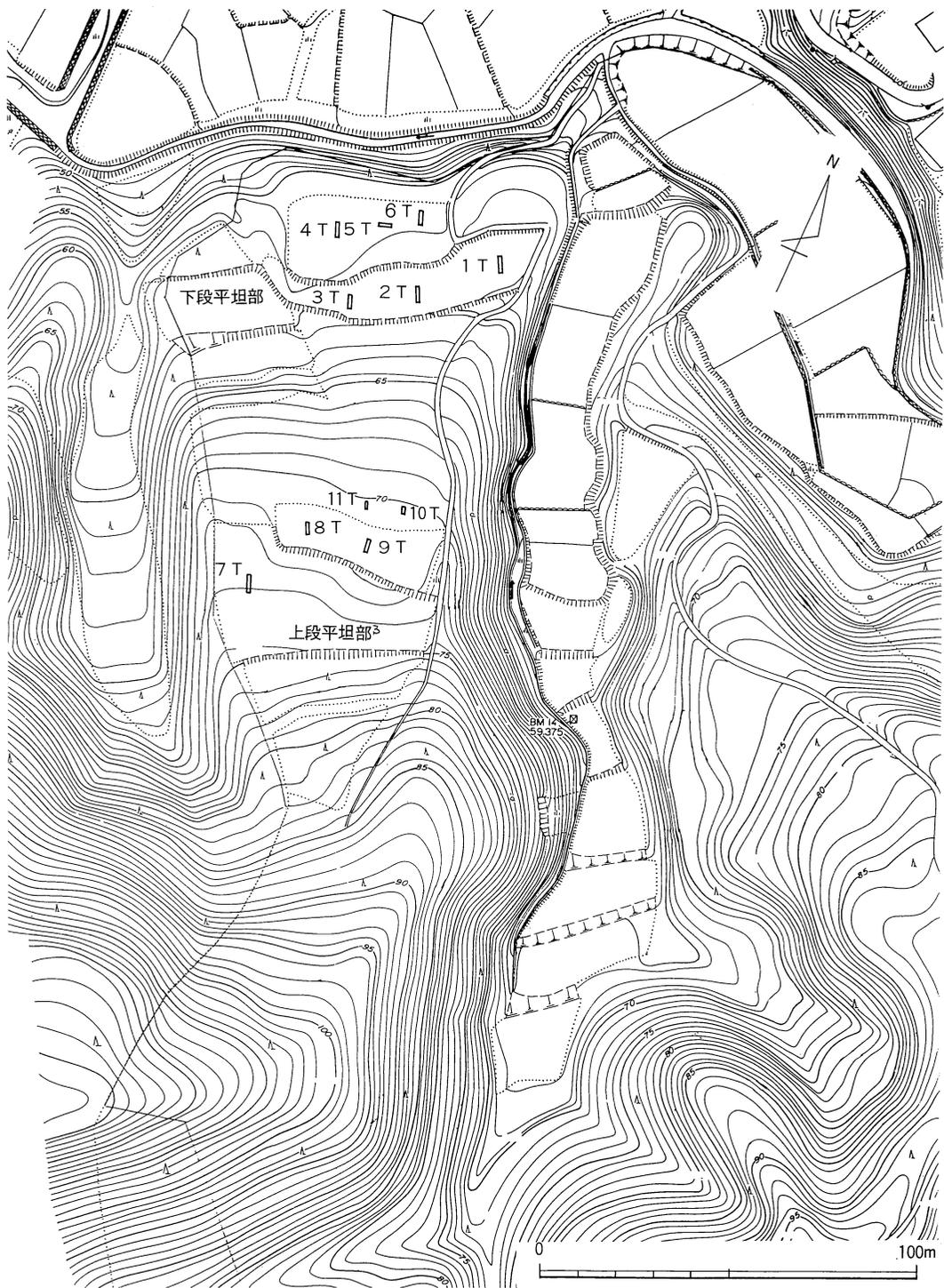
### 2. 調査の方法と概要

調査は、1m×5mのトレンチを基本として設定し実施した。

**下段平坦部：**布痕土器などの遺物が散布している箇所である。基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒褐色土、第Ⅲ層2次アカホヤ、第Ⅳ層アカホヤ、第Ⅴ層礫を若干含む茶褐色土、第Ⅵ層灰褐色土礫層となっている。第1トレンチは第Ⅵ層灰褐色土礫層の盛上がり部分で第Ⅰ層下は第Ⅳ層ないし第Ⅵ層である。第2～5トレンチの第Ⅲ層で布痕土器やヘラ切りの土師器坏などの土器が出土し、第5トレンチでは埋土が暗褐色で幅40cmの長方形プランの遺構が確認された。第Ⅴ層では遺物は出土していない。

**上段平坦部：**基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒褐色土、第Ⅲ層2次アカホヤ、第Ⅳ層アカホヤ、第Ⅴ層締まりのない淡褐色土、第Ⅵ層褐色土、第Ⅶ層やや粘質の黒褐色土で各トレンチは開墾等で影響は受けているが、第Ⅳ層アカホヤが良好に残存している。第7トレンチでは第Ⅴ層で土器片、焼石、第8トレンチでは第Ⅵ層で土器片、焼石が出土し、第11トレンチでは第Ⅴ層で焼石が出土している。

調査結果から下段平坦部は平安時代の遺跡が、上段平坦部には縄文早期の遺跡が所在し、その包含層も良好に残存していると考えられる。



第5図 奈留地区遺跡群トレンチ配置図

図版4 奈留地区遺跡群



下段平坦部近景 (東より)



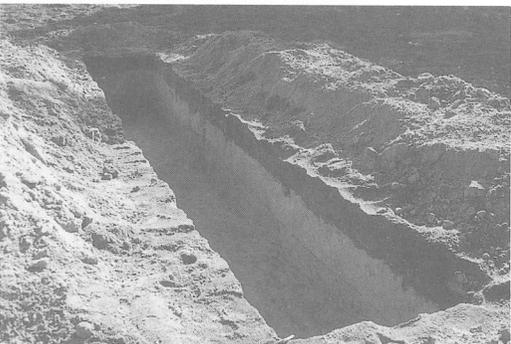
第1トレンチ (南より)



第2トレンチ (南より)



第3トレンチ (南より)



第6トレンチ (北より)



上段平坦部近景 (東より)



第9トレンチ (南より)



第11トレンチ (南より)

## 第5節 鬼塚地区遺跡群

### 1. 遺跡の位置及び調査に至る経緯

小林市大字南西方に所在する鬼塚地区は、小林市役所の西南西約7kmの霧島山の北麓、北へ緩やかに傾斜する台地上に位置する。台地の東縁には、冬期には水量が極端に低下する岩瀬川の支流石氷川が流れ、西縁には川内川の支流である二双川の湧水点がある。また、北縁には浸蝕作用によって形成された小谷が発達し、北方向へのびる細長い台地が幾筋も見られる。全国遺跡地図では鬼塚地区内に遺跡は表示されていないが、平成元年度の分布調査で鬼塚地区の南端で縄文早期の遺跡、北縁の細長い台地上で縄文後期、台地中央部で縄文後期土器の散布地、東縁で縄文土器散布地等が確認された。

県西諸県農林振興局では、昭和59年度から鬼塚地区特殊農地保全整備事業に着手している。平成2年度工事施工に伴い台地中央部に立地する鬼塚第1遺跡については、小林市教育委員会が昨年10～12月発掘調査を実施している。平成3年度工事予定地内に遺物散布地が所在したので、通称「ヒエバイ」において試掘調査を1月16・17日の2日間実施した。

### 2. 調査の方法と概要

調査は、重機を使用して実施した。今回の調査対象地の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層やや褐色味のある黒色土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層2次アカホヤ、第Ⅴ層アカホヤ、第Ⅵ層カシワバン、第Ⅶ層小礫を含むやや粘質の灰褐色土がであるが、台地北半部では、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層アカホヤで、2次アカホヤは見られない。

トレンチで9か所設定した。土層の残存状況は概ね良好で第Ⅳ層2次アカホヤが残るトレンチも多く、また、各トレンチでは北ほど第Ⅱ層の残存状況は良い。遺構は、第1トレンチで1辺60～70cm、埋土が暗褐色土の方形プランの土坑が2基検出され、うち1基には炭化物が多量に含まれる。第3トレンチでは長方形プランの土坑、ピット様のもの、第5トレンチでも残りは悪いが、炭化物、焼土？を含む長方形の土坑等が検出されている。検出面はいずれも第Ⅳ層面で埋土は暗褐色土或いは黒褐色土である。遺物は土器のみではあるが、第1、3、6トレンチの第Ⅳ層2次アカホヤで無文のにぶい赤褐色を呈する弥生土器が出土した。

以上の結果から「ヒエバイ」には、弥生時代の遺構・遺物が存在するが、その包含層は第Ⅳ層2次アカホヤを中心とした層と推定される。時期は、出土層と土器から弥生中期から後期の時期と考えられるが、詳細な時期は不明である。



第6図 鬼塚地区遺跡群トレンチ配置図

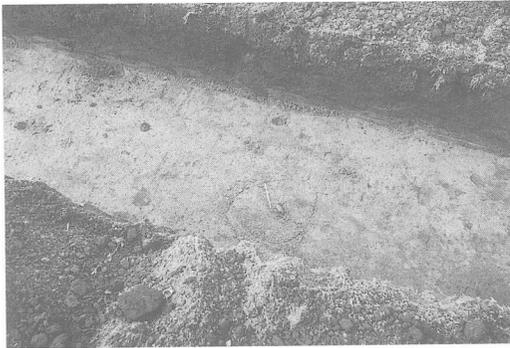
図版5 鬼塚地区遺跡群



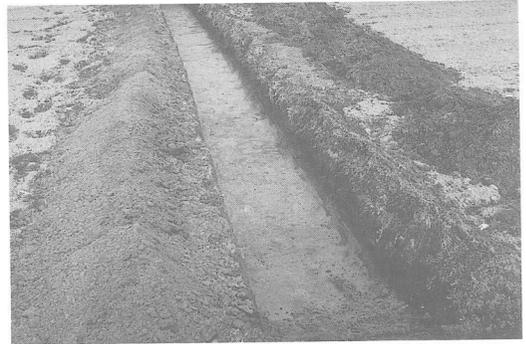
第1 トレンチ (西より)



第1 トレンチ遺構検出状況 (東より)



第1 トレンチ遺物出土状況



第2 トレンチ (東より)



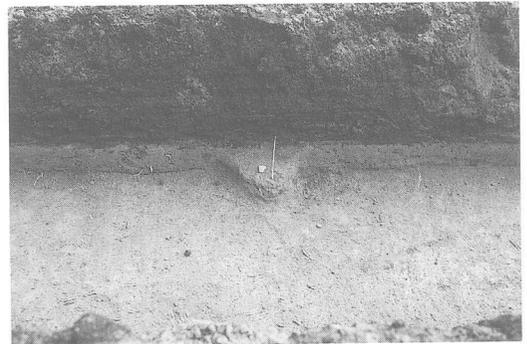
第3 トレンチ (東より)



第3 トレンチ遺構検出状況



第6 トレンチ (東より)



第6 トレンチ遺物出土状況

## 第6節 椎屋形遺跡群

### 1. 遺跡の位置及び調査に至る経緯

宮崎市大字細江字椎屋形に所在する椎屋形遺跡群は、宮崎市役所の西南西約7km、清武川と小田内川の合流地点の西の南面する台地上に位置する。台地の標高は、約100mで縁辺は急崖となっており、沖積地との比高差は50mである。全国遺跡地図では台地南端に散布地が1か所所在していたが、平成元年度の分布調査では、台地北縁の中央部で、集石遺構を伴う縄文早期の遺跡、台地北縁北端部で弥生土器片の散布地及び焼石の散布地が確認された。なお、台地北縁の中央部の下には湧水がある。

県中部農林振興局では、椎屋形、時雨、清武町船引にわたる地区で時屋地区特殊農地保全事業を計画し、平成3年度椎屋形地区から工事に着手する予定である。工事予定地内に遺物散布地が所在し、また、その他地形上遺跡の可能性のある場所が存在したので試掘調査を平成3年1月22・23日の2日間実施した。

### 2. 調査の方法と概要

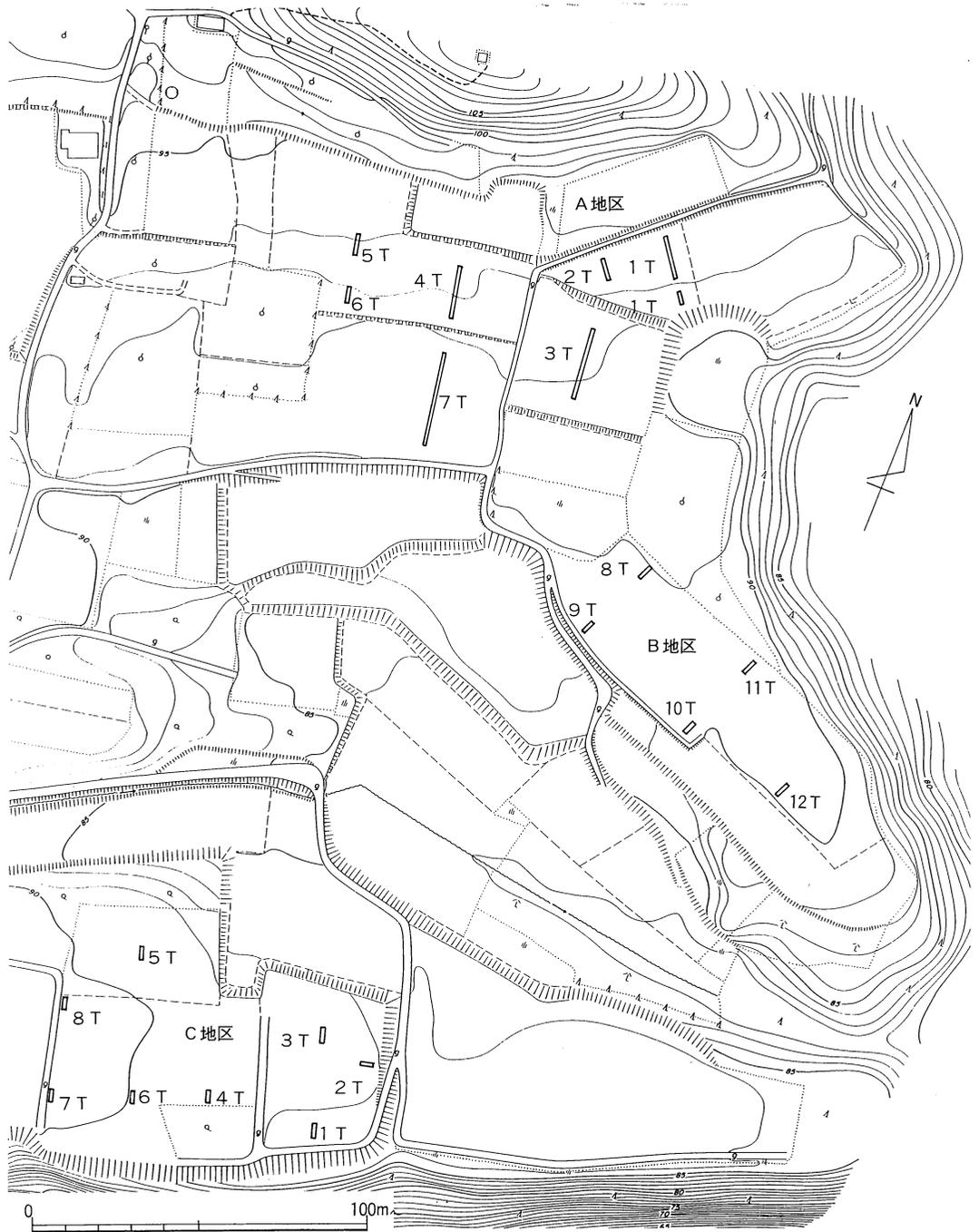
調査は、重機を1日使用しトレンチ法で実施した。調査地の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層アカホヤ、第Ⅳ層黒褐色土、第Ⅴ層褐色土、第Ⅵ層シラス混りの褐色土、第Ⅶ層シラスがである。開墾等で影響を受けているが、概して土層の残存は良好でアカホヤ等は残存している箇所は多い。

**A地区：**量は少ないが弥生土器片が散布していた箇所、トレンチは8か所設定した。第Ⅲ層アカホヤは一部削平を受けているが、良好に残存し場所によっては第Ⅱ層黒色土も残存している。調査の中で第Ⅱ層黒色土で弥生土器片は出土せず、遺構等も検出されなかった。

**B地区：**焼石が散布していた箇所である。トレンチは5か所設定した。第8トレンチでは削平が著しく、第Ⅴ層褐色土から残存している。その他のトレンチでは第Ⅱ層黒色土ないし第Ⅲ層アカホヤ以下が残存しているが、東端部では一部ごぼう作付けに伴うトレンチャーの影響を受けている。第12トレンチの第Ⅳ層黒褐色土下層から第Ⅴ層褐色土上層で土器片及び焼石が出土し、第10トレンチでは焼石が出土した。

**C地区：**遺物等の散布は確認されていないが、地形上遺跡の可能性のあった地区である。1m×4mないし3mのトレンチを8か所設定した。一部削平を受けているが概ね第Ⅲ層アカホヤ以下が残存している。第3トレンチでは、黒色土が深く、95cmあたりで細い軽石・黄褐色ボラを含む。深さ125cmまで掘りすすめたがアカホヤまでは達せず、この付近は、谷部に当たると考えられる。C地区では、遺物等は出土せず遺跡とは確認できなかった。

この結果からA地区は弥生時代の遺跡であるが、遺構等の分布密度は小さいと考えられる。B地区には縄文早期の遺跡が所在し、トレンチャーの影響は受けているが、アカホヤが残存しているので遺跡の状態は良好と考えられる。



第7図 椎屋形遺跡群トレンチ配置図

図版6 椎屋形遺跡群



A地区第3トレンチ (北より)



A地区第1トレンチ (南より)



A地区第4トレンチ (北より)



B地区遠景 (北より)



B地区第10トレンチ (南より)



B地区第12トレンチ (南より)



C地区第2トレンチ (西より)



C地区第4トレンチ (南より)

## 第7節 長江浦地区遺跡群

### 1. 遺跡の位置及び調査に至る経緯

長江浦地区遺跡は、えびの市役所の南約4km霧島山の麓に位置し、その中央部を長江浦川が北流している。県西諸県農林振興局では、昭和62年度から長江浦地区のほ場整備事業を実施しているが、平成3年度の工事実施予定地内に昭和62年度の分布調査で確認していた遺物散布地（水流遺跡）が含まれていたため試掘調査を実施した。また、調査に先立つ分布調査で田ノ原において遺物散布を確認したため本年度併せて試掘調査を実施した。

### 2. 調査の方法と概要

調査は、幅1m長さ4～6mのトレンチを設定して行った。調査地は、水田で褐色系粘土が主な土壌でアカホヤの堆積は認められず、褐色系粘土の下層に砂層・礫層となっている。

**水流遺跡：**分布調査で黒曜石や土器が採集されていた地点である。第Ⅰ層耕作土（灰褐色の粘質土）、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層粘質ぎみの暗褐色土、第Ⅳ層礫混りの褐色土、第Ⅴ層礫混りの赤褐色土、第Ⅵ層シラスを含む粘質の灰黄色土、第Ⅶ層シラスが基本層序である。しかしながら、第Ⅱ層黒色土の残存するのは第3トレンチのみで、第1、6、8、9、10トレンチでは第Ⅰ層耕作土下は第Ⅳ層礫混りの褐色土である。第5トレンチでは第Ⅰ層耕作土下が第Ⅲ層粘質ぎみの暗褐色土で、同層で縄文後期～晩期の黒色磨研土器が出土した。第8、9、10トレンチでは第Ⅰ層耕作土から黒曜石、土器片、近世以降の陶磁器片等が出土している。第2・11～14トレンチでは、第Ⅰ層より褐色系の粘質土、砂を含む暗褐色土と続き、礫層が確認されたのは第11トレンチの地表下90cm、第12トレンチで60cmで、砂を含む暗褐色土が厚く堆積している。遺物は第11～14トレンチで褐色系の粘質土で石鏃、青磁、糸切りの土師器皿や陶磁器等が出土しているが、流れ込みと推定された。

この結果から分布調査で採集された黒曜石片は、縄文後期～晩期の時期と推定される。包含層等が残存しているのは、それ程良好ではないが、第3～5トレンチ周辺と考えられる。第2・11～14トレンチでは砂を含む暗褐色土が見られたが、この部分は旧河道であったと思われる。

**田ノ原遺跡：**遺跡周辺は、湧水の豊富な所で山際に豊富な水量のある湧水地が2か所あり、また、第4トレンチのすぐ隣の水田にも水量は少ないが湧水地が1か所あり、北方に細長く湿田が広がっている。遺跡の基本層序は、第Ⅰ層は耕作土にもなっている灰褐色土、第Ⅱ層ややにぶい黒色土、第Ⅲ層暗褐色土、第Ⅳ層やや黄味をおび部分的に黄褐色を呈する褐色土、第Ⅴ層礫を含む淡黄褐色土であり、土層の残存状況は耕作土下が第Ⅴ層礫を含む淡黄褐色土であった第2トレンチ以外は概ね良好である。第1トレンチでは、第Ⅲ層暗褐色土で刻目突帯をもつ頸部片、高坏の脚部等が出土し、第3トレンチでは、時期不詳（近世?）ではあるが灰褐色土層から掘り込まれ、下部が空洞となっている灰石（溶結凝灰岩）の配石が検出された。また、第Ⅲ層暗褐色土で土器片も出土した。第4トレンチでは



第8図 長江浦地区遺跡群水流遺跡トレンチ配置図

第Ⅱ層ややにぶい黒色土が残存している。

この結果から遺跡は古墳時代の遺跡外でその広がりも広範囲にわたると考えられる。



第9図 長江浦地区遺跡群田ノ原遺跡トレンチ配置図

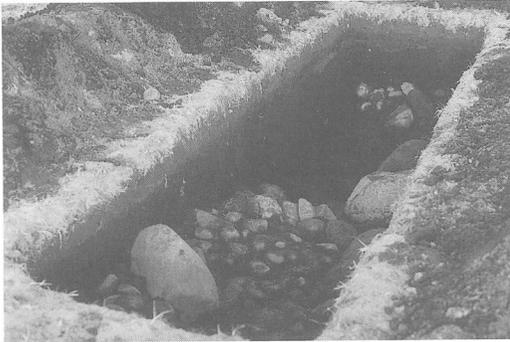
図版7 長江浦地区遺跡群



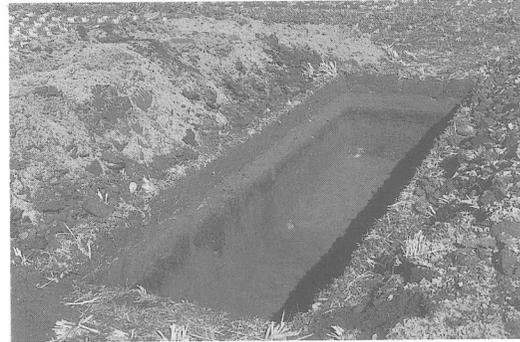
水流遺跡遠景 (東より)



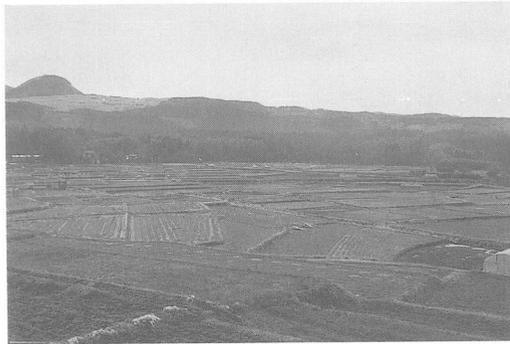
水流遺跡第7トレンチ (東より)



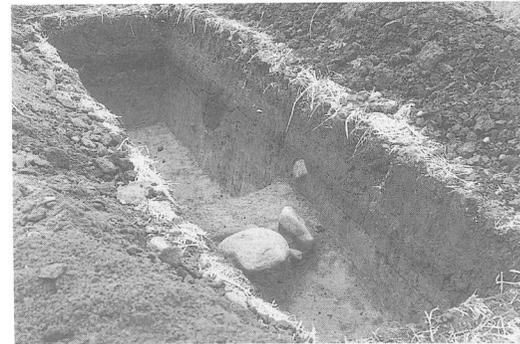
水流遺跡第3トレンチ (西より)



水流遺跡第13トレンチ (南より)



田ノ原遺跡遠景 (北より)



田ノ原遺跡第1トレンチ (西より)



田ノ原遺跡第3トレンチ (西より)



田ノ原遺跡第3トレンチ (東より)

平成2年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書

平成3年3月31日

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県教育庁文化課